

東京富士美術館 名曲コンサート

“不屈のチェリスト” ポーランド パベウ・ロック  
～ 今蘇る、ショパンが愛したチェロ～

日時: 11月19日(土) 18:00～19:00 会場: 東京富士美術館  
 出演: パベウ・ロック(チェロ)、平澤真希(ピアノ)  
 内容: 若き頃より世界を舞台に活躍のポーランド人チェリスト、パベウ・ロック。十数年前、心臓病に倒れ演奏活動を自粛。しかし日本人女性ピアニストとの出会いにより、自らの使命に目覚め“不屈”の精神で再起。不死鳥の如く蘇ったチェリストと、しなやかな女流ピアニストによる深き共鳴の二重奏。ショパン晩年、最後の名曲チェロソナタや日本の曲など演奏。ポーランドと日本の文化交流コンサートにご期待下さい。  
 曲目: ショパン/ラルゴ -ショパンが聴いたチェロで-  
 ベートーベン/チェロとピアノのためのソナタ Op.5-2 ト短調  
 宮城道雄/春の海、サンサーンス/白鳥、バッハ/G線上のアリア、バッハ=グノー/アベ・マリア  
 ショパン/ピアノとチェロのためのソナタ Op.65 ト短調

パベウ・ロック (チェロ) Pawel Rok

1951年ポーランド・カトビツェに生まれる。7歳よりレオナルド・ビソツキ氏にチェロを習い始める。ワルシャワ音楽院(現 ショパンアカデミー)でカジミエシュ・ヴィウコムルスキ氏に師事し、最優秀首席卒業。ポーランド室内楽コンクール、バッハ国際コンクール、ペオグラード国際コンクールで、それぞれ第1位優勝。ヴィトルド・ロビツキ指揮のワルシャワ国立フィルハーモニーやポーランドラジオシンフォニーのソリストとして世界各国で演奏。日本にも1970年代に数回ツアーで各地演奏している。また70年～80年代にかけ、ヴェニス、ザグレブ、チェコ室内楽管弦楽団のソリスト、はじめ、ポーランド、ドイツ、イタリア、チェコ、イラン、エジプト等で精力的に活躍。

ポーランドを代表するチェリストとして、ポーランド国立音楽学校や韓国ソウル音楽院の客員教授として後進の指導にもあたる。彼の持つ独特の音色はこれまでにたくさんの音楽評論家たちに高く評価されてきた。

十数年前より心臓病を患い、演奏活動を自粛せざるを得ない状態に。しかし2005年3月、日本人女性ピアニストとの出会いにより、自らの使命に目覚め“不屈”の精神で再起。不死鳥の如く蘇ったチェロの音律は、聴く人の魂を揺さぶり、以前にも増して深い感銘を与えている。

ロック氏は、奇しき縁で、“ショパン”の親友チェリスト、フランコム(ゲアダニーニ)を所有しており、今回は、日本の音楽愛好家のために特別披露したいと来日を楽しみにしている。

平澤真希 (ピアノ) ひらさわ●まき

東京音楽大学卒。1993年国際霧島音楽祭でグランプリ受賞。その際、審査委員のレギナ・スメンジャンカ(ポーランドショパンアカデミー元学長)に才能を認められ、ショパンアカデミー大学院に留学。96年最優秀首席卒業。数多くの国際音楽祭に出演。フランス、オランダなどでリサイタル、オーケストラ共演等の演奏活動を行なう。またフィリピン、クウェートなどアジアでの公演の他、「ショパンとポーランド近代音楽」を日本で開催。04年には、ポーランドの巨匠バイオリニスト、クルカとデュオリサイタルの日本ツアーで大好評を得る。ポーランド国内では、03年より、「すべての子ども達のための学校コンサート」を続けている。05年は、チェリスト、パベウ・ロックとのデュオリサイタルをはじめ、室内楽の活動も積極的に行なっている。

CD 「ショパン没後のポーランド音楽」、「Passion the Piano」他  
 現在、ワルシャワ在住。

平澤真希の解釈は、「いつも彼女独特の個性、それはまさに燃えるようで情熱に満ち溢れている、現代の単一化された世界には非常に稀な特徴を持つピアニスト」と評されている。これまでに島川真知子、中島和彦、岡藤由希子、レギナ・スメンジャンカの各氏に師事。



【ショパンの愛したチェロ】

ショパンの晩年、最後に作曲したのが「チェロとピアノのソナタ 作品65」です。ショパンは友人のチェリストのフランコムにこの曲を捧げました。恋人ジョルジュ・サンドとの破局、肺結核の病魔、祖国へ帰れぬ思い、死を直前にひかえ、ショパンはこの曲に、死に対する格段の思いを込めて作曲しました。

これまでのショパンの形式からするとまったく異なった革命的な創作となっています。ショパンが亡くなる直前にどうしても聴きたかったのがこの“ソナタの3楽章”です。当時の親友でありこの曲を献呈されたフランコムが楽器を持って駆けつけ、そしてそのころにいたショパンのお姉さんのピアノと共に演奏されました。ショパンは、枕元で聴きながら、その直後に息をひきとりました。

不思議な縁で、この友人フランコム(ゲアダニーニ)を、パベウ・ロックさんが所有しています。今回のコンサートでは、ショパンの3楽章・ラルゴを、この“ゲアダニーニ”で演奏いたします。もちろん、私も及ばずながらショパンのお姉さんになったつもりで演奏したいと思っております。

平澤真希

《楽器の来歴》

1733年作(於:ミラノ) ?

⇒ドットチャウエル

⇒【フランコム】

⇒クレンゲル

⇒テジデリ・ダンチョフスキ

(戦前のポーランドの名チェリスト、パベウ・ロックは孫弟子にあたる)

⇒【パベウ・ロック】1972年～

(注) ショパン(1810～1849年)存命中のものに関しては多くのものについて、確実な証明できるもので現物で残されているものがほとんどありません。このチェロに関してもショパン関連チェロとしての証明書などはありません。ここで紹介されている来歴は、あくまでも名器チェロ“ゲアダニーニ”の来歴として、語り継がれてきたものです。

E U R O P E  
 Présentation exceptionnelle de divers musées et collections venues d'Europe : France, Italie, Allemagne, Russie, Belgique, Autriche...  
 Exposition, Napoléon et le XXI<sup>e</sup> siècle — Napoléon, l'Europe et la culture : une autre conquête

